

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野東中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	さいたま市学習状況調査の結果より、教科領域等別では、中1数学「関数」、中1理解「粒子」を柱とする領域、中2理科「地球」を柱とする領域において市平均を下回った結果となった。全国学力・学習状況調査の結果も踏まえ、次年度以降基本的な知識・技能の定着を目指すとともに、資料にある情報を読み取る力、自らの知識等を活用して自分の考えを伝えられる力を身につけられるように授業改善を目指す。
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査の結果より、身につけた知識や技能を活用し、自らの考えを伝えられる力を身につけられるように授業改善を目指す。授業時間内で正解か否かを論ずるだけでなく、数値やデータ等に基づき根拠を示し、自分の考えを筋道を立ててまとめたり、発表したりする展開を研究していきたいと考える。
主体的に学習に取り組む態度	各種のアンケート調査結果より、学習意欲自体は高い生徒が多いが、今の学習が将来にどう生きてくるかを考えられていないということがわかった。単元の初めに今の学習が将来にどう生きるかなどを説明したうえで授業を進めるなど、各教科で前向きな姿勢で授業に望めるようにさせていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語、数学の「知識・技能」において市平均を上回る。	⇒【一人ひとりの学習状況に応じた学習指導法の工夫・改善】全ての教科で前時の学習を振り返る時間をつくる。また、基礎・基本を繰り返し解いたり練習したりする機会を増やし、「分かった」「できた」と感じる場面を増やす。
思考・判断・表現	R5さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語数学の「思考・判断・表現」において市平均を上回る。	⇒【さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業』を積極的に取り入れた指導の工夫】ICTを活用し、自分の考えを書いたり発表したりすることで、課題に対して自力解決や協働解決できるように指導する。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査(生活に関するアンケート)における「学ぶことや働くことの意義を考えたり、今、学校で学んだことと、自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。」に対して、肯定的な回答の割合の市平均を上回る。	⇒【ねらいを明確にした学習や領域分野の学習の充実】全ての教科で生徒にねらいを明示し、学習の見通しをもたせる。また、領域分野の学習において実社会との関連性を意識した授業を充実させる。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査およびさいたま市学習状況調査の国語、数学の「知識・技能」において全国平均、市平均を上回った。良い授業アンケートに変わる「学びの指標」でも、校内平均35ポイント(4ポイント中)を達成した。	A
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査およびさいたま市学習状況調査の国語、数学の「思考・判断・表現」において全国平均、市平均を上回った。	A
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査の生活に関するアンケートの「学ぶことや働くことの意義を考えたり、今、学校で学んだことと、自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。」に対する肯定的な回答は67.6%(中1)、73.3%(中2)、72.6%(中3)と、学年によって市平均を上回ることができない学年もあった。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、国語・数学・英語の全国平均とさいたま市の平均を上回った。唯一さいたま市の平均を下回ったのが、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」であった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」においては、国語・数学・英語の全教科で全国平均とさいたま市の平均を上回った。さいたま市平均との差が最も小さかったのは、国語の「話すこと・聞くこと」であった。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙「国語の勉強が好きだ」の肯定的な回答が65.1%(全国平均+3.7%)、「数学の勉強が好きだ」58.6%(全国平均+1.%)、「英語の勉強が好きだ」60.1%(全国平均+8.2%)であった。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	学習状況に関するアンケートで「(各教科の)授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」に対する肯定的な回答は国語(91.6%)、数学(84.7%)、社会(87.0%)、理科(78.6%)であった。平均正答率は全教科とも市の平均値より3ポイント以上上回り、「授業の内容はよく分かりますか。」に対する肯定的な回答は国語(86.6%)、数学(81.7%)、社会(94.3%)、理科(92.7%)という結果より、学習の内容の理解度は高いが、授業に対する意欲は教科によって差があることが分かった。
中2	学習状況に関するアンケートで「(各教科の)授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」に対する肯定的な回答は、国語(87.8%)、数学(76.9%)、社会(81.2%)、理科(71.0%)であった。平均正答率は全教科とも市の平均値より3ポイント以上上回り、「授業の内容はよく分かりますか。」に対する肯定的な回答は国語(87.5%)、数学(83.1%)、社会(94.1%)、理科(71.0%)という結果より、学習の内容の理解度は高いが、授業に対する意欲は教科によって差があることが分かった。
中3	学習状況に関するアンケートで「(各教科の)授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」に対する肯定的な回答は、国語(88.9%)、数学(80.8%)、社会(90.2%)、理科(77.4%)であった。平均正答率は全教科とも市の平均値より3ポイント以上上回り、「授業の内容はよく分かりますか。」に対する肯定的な回答は国語(88.0%)、数学(85.0%)、社会(91.5%)、理科(86.3%)という結果より、学習の内容の理解度は高いが、授業に対する意欲は教科によって差があることが分かった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の国語、数学、英語の「知識・技能」の全国平均を上回ったため、さいたま市学習状況調査でも当初の目標を達成できるように努める。	⇒ 各教科、各領域で生徒自らが知識を得ようとする活動を増やした授業を展開していく。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の国語、数学、英語の「思考・判断・表現」の全国平均を上回ったため、さいたま市学習状況調査でも当初の目標を達成できるように努める。	⇒ 各教科、各領域で生徒自身が自らの考えを理論立てて説明したり、書き記したりする活動を行い、指導していく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙では、教科の勉強が好きかの質問においては、肯定的な回答率が市や全国平均を上回っているため、さいたま市学習状況調査でのアンケートでも市平均を上回るように努める。	⇒ 各教科において、いま学習している内容が将来どういうことに役立つのかを示し、学習の見通しについて授業時間内だけでなく進級後、卒業後までのことを伝える機会を増やす。